

令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 教育の質的転換に関する事業

申請組織 現代マネジメント学部

申請組織長 役職名 学部長 氏名 植林 茂

統括責任者 役職名 教授 氏名 東 珠実

課題名 学生ピアサポート チーム・レナータの活動費

事業組織	役 割	氏 名	所属・役職名	役割分担
	統括責任	東 珠実	現マネ	総括・企画・運営
		植林 茂	現マネ・学部長	企画・運営
		現代マネジメント学部 事務室員		運営・連絡

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

チーム・レナータの発足は、学生控室の改修にあたり、学生の意見を取り入れた空間を構築するため、平成 27 年度に当時の 3 年生有志 6 名が「チーム・レナータ」を結成、平成 28 年度には新 2 年生 7 名と新 3 年生 8 名が加わったことによる。学生控室に対するニーズを探るためのアンケート調査の実施や業者への提案を行い、平成 28 年 9 月に学生控室が完成した。

学生控室はプロジェクトチーム名と同様に RENATA を愛称とし、これまでにない空間として昼夜問わず多くの学生たちに利用されている様子が伺える。チーム・レナータのメンバーは学生控室改修に留まらず、学生控室を活用したピアサポート活動をしていく有志として活動目的を発展させ、これまで、「資生堂ジャパン株式会社と連携によるメイク講座」「七夕・ハロウィーン・クリスマスなど季節のイベント」「ライブラリーコーナーの設置」等を実施し、学生の主体的な活動を通したそれぞれのイベントのマネジメントに挑戦してきた。

令和 6 年度は、チームメンバーの充実と運営体制の整備を柱におきつつ、昨年度同様、オープンキャンパスでの講座担当のほか、ピアサポートとしての活動をさらに充実させることを目的に活動を展開した。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

令和 6 年度は新入生にもメンバーを広げた結果、新 3 年生 5 名・新 2 年生 3 名・新入生 3 名の 11 名体制で活動をスタートさせた。七夕の飾り付け、オープンキャンパスでの高校生へのプレゼンテーション、ハロウィーンイベント、クリスマス飾り付け、トイレ生理用品の設置調査、RENATA ライブラリーコーナーの整備・管理を実施した。チーム以外の提案を受け付けるご意見箱も引き続き運営し、いずれも学生が主体的かつ効率的に事前打ち合わせやイベント準備を行い、PDCA サイクルを廻して企画・実施・報告を行っている。

3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

1. アクティブ・ラーニングの実施

チーム・レナータの活動はすべて学生の自主的な企画や意見に基づいて行なわれている。

発足当初は会議に教員・事務職員が参加していたが、現在は学生が主体となって自ら企画を考え、要所で教員・事務職員が助言や指導、運営準備へのサポートなどを行うというスタイルが定着している。また、イベントを実施するにあたり「誰が」「何を」「どうやって」行なうのかについて、企画書を提出し教員・事務職員が具体的なアドバイスをしながら遂行してきた。これらの活動により、アクティブラーニングに期待される「自分で考える力」、「物事を動かす力」、「能動的に物事に取り組む力」の育成が達成できたと言える。また、年度ごとの引き継ぎが十分に行われており、前年度の実績を生かしつつ改善点を修正する活動を行っている。

2. ピアサポート

チーム・レナータ結成以来、定期的なメンバー募集を行うサイクルが定着してきており、学年を超えた横断的かつ継続的な体制の維持が可能となっている。各イベントでは学年を超えた協働が実施できており、多くの学生たちが希望している「上級生との交流」の環境もより整ってきている。また、昨年度から継続で実施しているトイレ生理用品設置調査は、まさに学生たちのニーズを学生たちが調査し、学部へつないでいくという実効性のあるピアサポート活動として評価できる。

3. 企業連携

平成29年4月から資生堂ジャパン株式会社と連携し、令和2年度から新型コロナウイルス禍により連携実施を見送っていたが、令和4年度に続き令和5年度は大学祭におけるメイクアップ講座を企画した。令和6年度においては、オープンキャンパスの学生プレゼンを担当し、株式会社カルビーからワークショップのための商品を調達し、実施後は、同社にフィードバックを送付するなど、代表者のリーダーシップにより、継続した取組を丁寧に行った。

4. キーワード（本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載）

①アクティブラーニング	②ピアサポート	③企業連携	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

○学生控室「RENATA」の改修を契機にチーム・レナータが発足したが、有志の学生による取り組みが10年以上にわたって継続して行われている。オープンキャンパスでも高校生に対して実施するワークショップが高評価を得るなど、学部の特色として機能している。

○昨年度の反省点として、引継ぎが不十分であった点が挙げられていたが、今年度は序盤は戸惑うこともあったものの徐々に新メンバーの2年生が積極的に活動を提案するなどの高い問題意識により、次年度のさらなる活動に期待できる状況になっている。

○メンバー募集に際し、掲示や説明会を実施し、参加者交流、メンバー間の相互理解を積極的に推進した。ボランティアで成り立つ組織のため学年毎の構成による硬直化も懸念されるが、チームのメンバーシップを育成することが課題である。

○運営・継続的なイベントにマンネリ化の予兆が散見される。昨年度に引き続き、トイレ生理用品の設置調査など新たな取り組みも見られたが、活動の全体を通してPDCAを機能させ、一つ一つの成果や評価を次年度に効果的に生かすことや運営方法の工夫など、モチベーションの継続への取り組みも検討が必要である。

○年間の予定を立てる段階での活発な意見交換ができるよう、教職員による情報提供を検討していく。